

# 奥州ブランド産品の販路拡大を

**質問** 岩谷堂タンス、岩谷堂くらしな、南部鉄器、前沢牛、江刺りんごなど奥州ブランド産品の販路拡大のための取り組みを伺う。

**市長** 来年2月に台湾の人気観光スポットである台北101に隣接する大型ショッピングモールで、物産展を行う予定である。

**質問** 今後は国内の市場が縮小に向かう。輸出に力を注ぐべきである。政府が推進する新輸出大国コンソーシアムは、輸出に関心のある中小企業に対して、無料で相談員を派遣する取組みである。市としても活用すべきである。

**市長** これまで春と秋に個別に企業訪問している。輸出の相談をされた際には、活用していきたい。

## 福祉避難所の体制づくりを

**質問** 第一次避難収容所とともに福祉避難所の体制づくりを急ぐべきと考えるが。

**市長** 現在、市内の社会福祉法人16法人29施設と協定を締結している。また災害時要支援者名簿の個別計画につ



いいなか 飯坂 一也 議員(公明党)

ては992名の同意を得ている。避難所の開設訓練などに関し、協定している社会福祉法人と協議を進めたい。

**質問** 地域防災の担い手として、小中学生の役割りも重要と考える。

**教育委員長** 水沢中学校の地区懇談会において、避難所における中学生の役割について確認をした。また、いくつかの小中学校で地域の防災訓練等に参加している。



新輸出大国コンソーシアムのPRチラシ

# 学校規模の適正化と統合について

**質問** 現在、本市に於ける学校数は小中学38校であり、内複式学級を実施しているのは11校20学級となっている。児童、生徒の減少が進む中、より良い教育環境を作り学校規模の適正化を行い、多様な能力を発揮させる責務があると思われる。また、教職員の授業改善の観点からも統合に向け検討すべきと考えるが。

**市長** 地域づくりに於いて学校が果たしてきた役割は大きいものと考えている。地域の文化、歴史個性を次世代に継ぐことも必要である。少子化の中、子供達にとって教育環境がどうあれば良いかを第一に考え、再編に向け検討する。

**教育委員長** 児童生徒の学力向上や多様な人間性を育むため、適正規模を確保する必要がある。地域の協力理解を求めつつ、今年度中に再編検討委員会を設置し、小中一貫校のあり方を含め、次期総合計画に学校再編を位置づけ、実施計画を策定する。

## 胆沢推肥化施設の展望について

**質問** 老朽化が著しい胆沢推肥化施設の活用方策を循環型農業を基本に見直しを図るべきと考えるが。

**市長** 施設維持、管理を行う事は困難な状況にある。し



適正規模に向け統合になる胆沢中学校

かし畜産振興の観点から個別畜産農家支援または新たな施設整備を含め検討する。

## 農業振興と両JAとの合同事業は

**質問** 平成30年より米の生産調整は廃止の方向にある。米対策を含め新たな農業施策のため両JAとの事業見直し、連携強化を図るべきと考えるが。

**市長** 水田活用の見直し又は地域づくり推進事業を充実する。高収益作物の導入等を支援しつつ両JAとの合同事業の見直しを含め検討する。



かとう 加藤 議員(新世会)